

氏名	江 國 史 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	経 済 学
学位授与番号	博甲第2183号
学位授与の日付	平成13年 3月25日
学位授与の要件	文化科学研究科産業社会文化学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	The Self-Employed Women's Association - Its History, the Present Structure, and A Model of Development Based on SEWA Philosophy - (女性自営業者連盟-歴史, 現組織及びSEWA哲学に基づく 発展モデルについて-)
論文審査委員	教授 藤本 喬雄 教授 源河 朝典 教授 吉田 建夫 助教授 真実一美 名古屋大学大学院経済学研究科教授 竹内 常善

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、インド共和国グジャラート州の都市アーメダバードに本部を置く、Self-Employed Women Association (SEWA) の歴史、その現在の組織構造を調査・紹介し、その発展経路を内生的成長理論から論じ、empowerment 理論で成功の要因を探ろうとしている。著者の問題意識は、欧米・日本の発展形態とは異なる経済成長・発展の可能性を模索したいという点にあり、その一事例として SEWA を研究している。また、SEWA の発展を女性の empowerment と理解して、その経済的成長を再現する簡単なモデルを構築している。

本論文は、二部構成で、第1部は、5章から成っている。まず、第1章では、SEWA の歴史を記述している。設立者であるエラ・バット女史の著作を引用しつつ、SEWA 設立の時期、発展時代を説明している。SEWA の前身は、ガンジーなどによって1917年に設立された、Textile Labour Association の女性セクターである。SEWA の目的、信条がガンジーの哲学に大いに負っていることが説明されている。発展の特徴の一つとして多数の協同組合 (co-operative societies) 設立が挙げられ、その最たるものとして、SEWA Bank の設立経過が述べられる。そして、貧困層からの安定的な貯蓄を実現するための SEWA Bank による工夫が書かれている。最後に、SEWA Bank の歴史的なパフォーマンスの統計表が与えられている。この章では、SEWA が設立当初から国際的な連帯を目指していたことが強調されている。

第2章では、現在の組織構造が説明されている。全体的な構造を概観した後、各種の協同組合の説明、特に SEWA Bank の民主的運営方法、意志決定組織の選挙方法が述べられる。続いて、SEWA Bank による、貯蓄、貸付など各種サービスが紹介されている。

第3章において、マイクロ・インシュランスに関する最近の新しい動きが紹介され、それに対する著者の理論的分析が加えられている。エラ・バット女史の反省にも拘わらず、SEWA Bank 設立当初からの保険サービスは、不可能であった、と主張している。更に、2000年より中央政府によって開始された貧困者のための保険制度を紹介し、そのアイデアの多

くが、SEWA Bank もしくはエラ・バット女史から来ている、としている。

第4章では、SEWA 発展の跡付けを、フリードマンの empowerment 理論の観点から整理している。著者は、フリードマンの政治的、社会的、心理的 empowerment に、経済的 empowerment を加えて、発展段階を整理している。そのようにまとめた場合、SEWA の発展は、計画的に統合的に行われたように見えるが、エラ・バット女史が回想しているように、必要に応じて対応した結果であると説明されている。更に、著者は内生的発展の理論から見ても、SEWA の歴史は、よくそれを体現しているものと見なしている。

第5章は、第1部の統計的付録であり、インド及びグジャラート州の人口動態的、経済的特徴を示している。

第2部は、4個の章から成り、まず第1章で従来の成長・発展モデルについて、代表的な文献を展望し、それらに共通する3点について批判を加えている。その3点とは、男性と女性という重要な二重性が抜けていること、限界生産物という概念に依存しすぎていること、微分方程式を使用して長期均衡の幾何級数的成長経路を考察する、ということである。第2章で著者によるモデルの説明がなされ、第3章でシミュレーション結果が与えられている。モデルの要点は、男性と女性の二重性を取り入れ、2個の体制を考える。最初の体制では男性が女性を支配し、全ての利潤は、まず、男性が取得し、一部を女性に移転した後は、彼らが自由に消費、投資について決定する。2番目の体制では、女性経営者は女性を雇用し、その利潤は彼女らで自由に処分できることになっている。シミュレーション結果では、男性が女性を支配する体制では、その経済成長が男性の消費係数に強く依存していることがわかる。男性が少し消費係数を増加させれば、経済縮小に陥ることもある。一方、女性が自由裁量を手にした体制では、男性の浪費増大は破滅的ではなくなる。第4章では、このモデルが見かけほど制限的なものではないことを説明している。

最後に、結語の章を設けて著者の得た結果をまとめている。

## 論文審査結果の要旨

学位審査会は、2001年2月13日、学内審査員4名、招聘審査委員1名によって行った。審査結果は以下の通りである。

### 1. 本論文の評価すべき点

(1) バングラデシュの Grameen Bank よりも、10年以上早く設立されながら、余り紹介されることがなかった、SEWA を取り上げ、その歴史や現組織構造を現地で得た資料やインタビュー結果から説明したことは、貴重な貢献である。

(2) SEWA の単なる歴史物語ではなく、その発展の要因を、empowerment 理論を援用して説明したことは評価できる。もっとも、その発展の契機は計画的にもたらされたものではなく、SEWA が必要にせまられて努力と工夫を重ねた結果であるが。

(3) 第2部の男性と女性の二重性を考慮したモデルは、大変興味深い。そのシミュレーション結果も重要な示唆を与えるものである。また、このモデルは固定資産を許容し、金融仲介機関などを含めていけば、今後の大きな発展の可能性を有している。(以下の問題点(2)を指摘する審査委員もあったが。)

(4) アーメダバードを2度訪問して、現地において日本では得難い資料を収集・紹介し、グジャラート語の資料も英語に翻訳したものを取り入れ、更に最新の動きを現地の新聞からも集めて紹介し、貴重な情報を提供している。

(5) 英語表現がよく練れていて読みやすい。

## 2. 本論文の若干の問題点

(1) 既存の関連文献について、もっと詳しく説明すべきであった。

(2) 第1部と第2部の有機的関連が弱い。第2部のモデルが、第1部のどのような観察結果から構築されるに至るのか、更に説明を加えるべきであった。

(3) 付録の資産形成に関する調査票は、実際まだ実施されていないので掲載する必要がないのではないか。

(4) 統計表の数値（特に、不平等度、貧困線）について少し注意を加えるほうが誤解を招かない。

## 3. 総合評価

上記の若干の問題点に拘わらず、総合的に評価すれば、本論文は執筆者に「経済学」の分野名を付記した博士の学位を授与するのに十分な内容と水準を有していることを認定する。